

## 子どもたちへ気づきをもたらし、力を育む NECソリューションイノベータの取り組み

増永 康行氏（NECマネジメントパートナー株式会社  
首都圏フロントサービス事業部 エキスパート）  
【2019年12月2日（日）東京セミナー】

私は、NECソリューションイノベータ株式会社の社会貢献活動を担当しています。弊社はNECグループの中でも特に、ICTで社会課題を解決する中核企業と位置付けられています。本社は江東区の新木場にあります。また、北海道から九州・沖縄まで、全国に拠点を展開しており、各地に約1万3,000人の従業員がおります。

弊社ではさまざまな社会貢献活動を行なっていますが、本日はその中で、職場体験学習とプログラミング教室といった次世代育成活動を紹介させていただきます。

### （１）NECグループの社会貢献活動

社会貢献活動には、4つの軸を置いております。「教育・文化・スポーツ」「福祉・ダイバーシティ」「環境」「地域社会」です。「教育・文化・スポーツ」では、後に詳しくご説明します職場体験学習やプログラミング教室をはじめ、インターネットやスマホの安心・安全な使い方を教えるeネットキャラバンの講師派遣、また弊社の管弦楽団によるチャリティコンサートや、NECグリーンロケッツ（ラグビーチーム）による小学生向けのタグラグビー教室を開催しております。「福祉・ダイバーシティ」では、障がい者福祉施設のお弁当やお菓子などを会社のエントランスなどで販売するマルシェや、障がい者スポーツの体験会などを行っています。特にマルシェは、後にご紹介します職場体験学習とつながっています。「環境」では緑のカーテンやハーブガーデンの育成、事業所周辺の花壇の整備などを行っています。「地域社会」では、江東区民まつりや江東湾岸まつり、環境フェアなどの地域行事や、清掃活動、交通安全運動などに積極的に参加しています。



### （２）障害者を知る職場体験学習

弊社でも長年、職場体験学習を受け入れておりましたが、従来は会社紹介に近い内容でした。ですが次第に「中学生たちにもっと価値のある三日間を過ごしてもらうことはできないだろうか」と悩むようになり、日本フィランソロピー協会さんにご相談させていただきました。そして、さまざまなアドバイスや支援をいただいて、3年前から弊社の社会貢献活動を一緒に考えてもらう内容に見直しました。

#### 福祉教育をテーマとしたプログラム構成のイメージ

| 1日目                                                                                                                 | 2日目                                                                                                                   | 3日目                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>会社紹介</li> <li>障がい者に対する意識の事前共有</li> <li>販売会について</li> <li>販売会の準備・宣伝</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>障がいについて（施設の皆さまと交流）</li> <li>販売会当日の運営</li> <li>利用者の皆さまと交流（販売会のふりかえり）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者の課題に、どう向き合ったら良いか？（ICTで？ 学校で？）</li> <li>成果発表会（職場体験の前後で意識は変わったか）</li> </ul> |
|                                                                                                                     |                                                                                                                       |                                                                                                                      |
| <p>従来からの活動を通じたつながりがあったからこそ、関係団体の理解を得て、本プログラムでの受け入れを実現</p>                                                           |                                                                                                                       |                                                                                                                      |

### 【Ⅲ：企業の取り組み】

この活動は、福祉教育を主題としております。3日間の活動のうち2日目には、障がい者福祉施設のマルシェを中学生に手伝っていただきます。この障がい者と触れる機会を活かすため、1日目には障がいのことを勉強してもらうとともに、なぜ私たちがマルシェを行っているのかを説明し、「自分たちはどう関われるか？」ということと一緒に考えてもらいます。2日目のマルシェの後には、障がい者の方々と一緒に昼食を食べて、感想や意見交換を行います。3日目は、これまでの体験を念頭におきながら、障がい者が抱える課題を考えてもらいます。切り口としては、「障がい者のバリアにICTはどう活かせるか」「自分自身はどんなことができるか」等があります。最後に、3日間のまとめとしての成果発表をしてもらいます。1日目に社会課題を知り、2日目に社会課題を解決する活動を実際に体験して、3日目には今の自分にできることを考えて発表してもらう、そんな3日間になっています。

生徒たちは、障がい者に接したことがない場合がほとんどですが、「『普通に接していいんだ』ということが分かった」と気づきを持ってくれるととても嬉しく思います。私たちも中学生の立派な発表を見て背筋が伸ばされる思いです。日本フィランソロピー協会の方々には、人間としてのあり方、生き方を改めて感じさせる機会を作っていただきました。

#### （３）プログラミング教室

2020年から学校教育においてプログラミング教育が必修化されることもあり、弊社のプログラミング教室も急加速しました。私たちが考えたのは、社会貢献のスタッフが各地に行ってプログラミング教室を実施するのではなく、今いる1万3,000人の社員がこのプログラミング教育の講師となり、全国各地の小学校や公民館に赴いて実施する、というものです。私たちはこれをプログラミング教室のパッケージ化と呼んでいます。3時間の授業のための教材とともに、実際の授業の流れを社員たちに説明して、その後各地で実践してもらっています。社内での説明会を実施しましたが、100人以上の人が勤務時間外にも関わらず参加してくれました。

これまでの実績としては、各地の小学校に加え、北海道のフリースクールでは、さまざまな事情から学校に通えない子どもたちに向けて開催しました。江東区の本社ビルでは、江東区教育委員会に後援をいただき、区内の小学生を対象に開催しております。その他、静岡県 の 聖光学院中学校では、学校説明会時の小学生向け企画として開催しましたし、多摩少年院では、近く卒院される方々に向けた訓練の一つとして開催しました。

#### （４）まとめ

私たちの次世代育成プログラムは、「視野視点を広げるきっかけとなり、高い論理性創造性を育成すること」を目指しています。簡単に言えば、次世代に課題を発見する力を身につけてもらい、その課題を解決する1つの手段として、ICTがあるということを理解してもらうことです。そこから将来、NECで働きたいという子どもが育ってくれればと願っています。

（了）

##### プログラミング教室の開催に至る経緯

###### ■ NECグループらしい活動とは？

- それまでは、どの企業・団体でも気軽に取り組める普遍的な活動であり、自社の特徴を生かし切れていなかった（“らしさ”が足りていない）



###### ■ 子どもたちを取り巻く社会の潮流

- 21世紀型の「生きる力」の育成（情報リテラシーを育む）
- 2020年のプログラミング教育必修化



時代のニーズに合致した、ICT企業らしい活動  
「プログラミング教室」を通して貢献していく。  
(社員が講師となり、プログラム作りの楽しさを伝える)

15 © NEC Solution Innovators, Ltd. 2018

NEC

## 12 大阪ガスの防災プログラム「考える防災教室」について

船溪 俊輔氏（大阪ガス株式会社  
近畿圏部 ソーシャルデザイン室（当時）  
ネットワークカンパニー 業務部 地域共創室（現））  
【2018年12月22日（土）大阪セミナー】

## （１）大阪ガスの次世代教育の歴史

まず、大阪ガスが防災プログラムに取り組んだ背景をお話しします。弊社は2006年にCSR憲章を制定しました。その中に「社会とのコミュニケーションの推進」「地域社会への貢献」という一文がございまして、これを基に次世代教育を始めました。

我々のエリアは近畿2府4県で、現在、家庭のお客様でおよそ597万戸のお客様にガスを供給させていただいており、このエリアに次世代教育を始めました。最初は、やはりガス事業者でしたので、2006年からエネルギー環境教育を始めました。現在も小学校での授業や、郊外学習施設でセミナーなどをやらせていただいています。

その後、2007年に食育基本法が制定されましたので、それに基づいて、弊社も食育を始めました。

実は大阪ガスは料理講習会を最も古くから行なっている企業です。企業の始まりはガス灯という明かりですが、日本に入ってきた頃は、実はエジソンが電球を発明してしまった頃であり、企業として創業最初の危機が来ていました。その時活路を見出したのが、厨房や暖房機器でした。しかしながら、買って頂いても「使い方がわからない」という方がおり、料理講習会を開いたのが始まりです。東京ガスさんでは100年以上の歴史がありますし、弊社も94年くらい歴史があります。そのため食に関する知見があり、食育活動を始めました。その後、このような事業をピーク時でおよそ年間250校、回数で言いますと2,000回を越える回数、小学校を中心に実施しました。

大阪ガスの次世代教育支援活動【概要】

| 開始時期   | 活動                                                                                               | 内容                                                                                            |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2006年～ | エネルギー環境教育<br> | ・出張授業 メニュー2種類<br>「エコ・クッキング」、<br>「地球にやさしくくらし見直し隊！」<br>・校外学習施設への受け入れ<br>・エネルギー環境教育セミナー          |
| 2008年～ | 食育<br>       | ・教材配布<br>・食育セミナー<br>・講演活動<br>・ライスサイエンスセミナー<br>・全国ワイスガス親子クッキングコンテスト<br>・「和食だし体験講座」…2017年新プログラム |
| 2011年～ | 火育<br>      | ・出張授業 ・イベント                                                                                   |
| 2014年～ | 防災<br>      | ・教材配布<br>※2017年3月 教材冊子改訂<br>※累計配布冊数 100,000冊突破                                                |

## （２）防災プログラムの始まり

2011年の東日本大震災後、学校から「大阪ガスは防災のプログラム持っていないの？」と随分と言われるようになりました。問いが生まれた背景には、文部科学省が学校に「防災プログラムを充実させなさい」という達しを出していたことがあります。私たちも子どもの頃、学校で当然避難訓練をやっていましたが、現場ではそれ以上の取り組みを求められて、出張授業をやっていた我々にSOSが来ることになりました。当時メディアでも次に南海トラフ地震が来ると散々言われていましたし、我々としても、1995年の阪神淡路大震災のときに神戸を中心に多くのお客様にご不便をおかけしたという事実もございましたので、そういう防災のためのプログラムを作ろうということになりました。

当時の動きとしては、例えば小学校では理科や総合学習の時間、中学校では保健体育等で防災教育に関する授業をしていることが少しずつ分かってきたので、大阪府教育センター

【Ⅲ：企業の取り組み】

の先生にも編集のアドバイスを頂戴し、企画では神戸のNPO法人プラスアーツにご協力頂き、防災教育用の冊子を作成いたしました。

先生方との相談の中で、授業にはアクティブラーニングを取り入れたいとのことでしたので、プログラムは、実践ができる高学年、主に小学校5年生以上を対象としました。また、子どもだけに話をしても家庭での防災意識は中々高まらないだろうと、冊子の後半には家庭で親御さんとお話しながら使えるようにしました。

### (3) 防災教育を広めるための工夫

今までの教育事業は基本、大阪ガスの社員が行って授業をさせていただきましたが、それでは今後防災教育を広めようという時に広がりにくいのではないかとされました。そのため、先生がおひとりでも授業ができるように、先生用の解説書も作りました。これらは基本的に、学校さんに求められた冊数分、お配りしています。また、先生が授業をしやすいうように、パワーポイントも45分、60分、90分版と用意しております。

中身は、日本における震災の発生状況や、ライフラインが止まった時の暮らしの紹介、それからガスが止まったときの対策などがあり、災害時の簡単なレシピ、紙食器の作り方など入れ、グループワーク、クイズを盛り込んだ思考型プログラムになっております。このプログラムは2014年6月17日にスタートさせました。

このプログラムは、先生方にもわかりやすいということで概ね評価をいただいております。新聞にも取り上げて頂きましたし、NHK神戸のニュースでも発信頂きましたので、スタートから割と認知度の高い冊子となりました。無料の配布ということもひとつあるのかも知れませんが、4年経った現在、配布冊数は10万冊を越えております。500校を超える小学校、また中学校や高校からも一部お申し込み頂いておりますし、大学の先生からも使いたいというようなお話を頂いております。

波及効果といたしまして、先ほど言いましたクッキングをもう少し本格的にやってくれないかという話があり、今は大阪ガスのクッキングスクール、近畿圏中の6～7箇所で、毎年9月の最初の日曜日は防災クッキングを行なっています。2018年は特に6月に大阪北部地震もございましたので、費用は全てチャリティーとして、被災地の方々に寄付をさせて頂きました。また、同内容のものを親子向けにやってほしいなどのお声がけをいろいろな団体さんからいただきました。

## 「災害時にそなえて、みんなで考えよう！防災クッキング」開催

身近にある食材などを使って、もしもをたくましく乗り切るための方法や調理レシピを紹介、実習試食した。今年5月発生の北部地震の経験をふまえて、マイコンクラブ・復興操場実習も加え、3会場においては専ら部の方の説明いただいた。のべ105名の親子に、学びながら調理を楽しんでいただくことができた。

**メニューは、**

- ・サバfileとキャベツのホイール巻き、
- ・トマトfileはらずし、
- ・かき豆、
- ・高野豆腐であみだし

**災害・震災の記憶では、**  
マイコンクラブ・復興操場の  
毎週日の専ら部員が少人数

**深層部会等では、**  
専ら部員と子どもたちが  
大阪府立社員に別して経験

**日時・場所・内容**

**日 日:** 2018年9月22日(日)  
**場所:** 大阪スナックキングスクラブ 6会場  
**参加者:** 小学生と保護者 105名  
**内容:** 防災の経験(大阪スナック)  
 非常時のこは(づくり)

**協力:** 緑水ハイツス、関西よつば連誼会、  
 朝木マヤサ小倉、山崎忠臣、  
 東洋ライス、タノミ節、船松食品



(4) ライフラインが止まる非常事態に備えて

具体的なプログラムの中身についてご紹介します。北は北海道から南は九州まで、まんべんなく「！」マークが点々と付いた日本地図を用います。全部で65あるこれは、全て1926年以降に震度6弱以上の地震が起きた場所です。計算すると、1年半の間に1回は日本のどこかで地震が起きています。大きい「！」マークが5つ出てくるのですが、これは



### 【Ⅲ：企業の取り組み】

震度7の地震が起きた場所です。日本は面積で考えると世界の中で0.25%しかないのですが、マグニチュード6以上ということに限っていいますと、20%以上が実は日本の周りで起きています。日本は世界的な地震大国です。

地震だけではなくて、最近は台風や大雨などの災害も起きます。そんなお話をした後、「ライフラインが止まったらどうなるか」ということを想定してもらいます。例えばガスが使えなくなるとお風呂に入れない、ご飯が炊けないということがあります。水道が使えなくなると洗い物もトイレも入浴もできません。電気だと、エアコン、テレビ、照明に始まり、炊飯器、冷蔵庫も止まります。洗濯機も電話もパソコンも全て使えなくなる。それでは3つとも使えなくなるとどうなるか。すべてのことがほとんど出来なくなります。こういうことがあるのだということを覚えておいてください。

私は神戸で阪神淡路を体験しましたので、電気もガスも水道も来ない状況を体感しました。一方で、人間は自分が体感しないと何となく分かっているつもりでもいざという時パニックになるものですので、「こういうことを覚えておいてください」、という話をさせていただいております。私も今回の大阪北部地震の時に2日ほど電話当番をしておりましたが、ご年配の方々などから、ややパニックの状態で電話かかって来ました。ガス会社であるにも関わらず、水道に関するお問い合わせも頂きました。いざ全てのことが止まってしまうと、人はパニックになってしまうのです。

それは心構えの問題だと思いますので、例えどのインフラが止まったとしても、冷静に状況判断できるようであってほしいと思います。これには大人子ども関係ありません。そうした理解に役立つ内容を載せた冊子になっております。

#### （５）学校の要望に企業として応える

最後にもう1つ、2017年4月から、学校で和食だしの体験講座を始めました。これも、学校の先生方の要望に、企業として応えようという考えから始まったものです。この講座は、和食が世界遺産になったことを踏まえ、作りました。昆布とかつおのだしを本格的にとり、料理を一品作るという内容です。我々が伝えたいのは、健康に良いという日本のだし、そして世界遺産に選ばれた和食文化を生活の中に取り入れてほしいということです。

2017年に学習指導要領の改定がありましたが、その家庭科の一文に、「和食の基本となるだしについて、煮干、昆布、かつおなど様々な素材からだしを取ることに触れ、味噌汁に出汁を使うことで風味が増すことを理解できるようにする」とあります。我々は当初、先生方は当然だしをお取りになっていると思っていたのですが、よくよく考えたら、先生こそ、忙しいのでだしパック使っています。ですから、我々がこういう授業をやりますのでどうぞご活用くださいと言いましたら、年間50回くらいの開催を想定していたところ、190回ほどご要望を頂きました。今年度はたぶん200回を越えると思っています。

タイミングが良かったのかもしれませんが、やはり学校現場で先生方が困っているところをお手伝いできたら良いと思いますし、これも何年も我々が行くのではなくて、先生方に講習会をすることで、私たちが行かなくても先生ができるようにつなげていくのが1つの役割ではないかなと思ってやらせていただいております。

（了）

## ジェンダー平等に向けて、学校と企業が若者の挑戦を支援 Gender 平等啓発ワークショップ

家田 えり子氏

(株式会社資生堂 社会価値創造本部 グループマネージャー)

【2018年12月2日（日）東京セミナー】

### (1) グローバルで女性を応援する資生堂として

資生堂は、この活動をサステナビリティ戦略の一環として行なっております。当社は、今年で創業146年を迎える企業ですが、この先100年も持続的に事業活動を継続するためには、社会から活かされてきた企業として、地球環境や社会の持続性にも積極的に関与していきたいと考えております。最も注力しているのが、「Diverse Beauty」です。この活動は、資生堂のリソースを活かして、様々な活動を行うものです。

「ジェンダー平等啓発ワークショップ」は、国連機関であるUN Womenと連携して進めています。私たちは、グローバルで女性を輝かせる企業No.1の存在を目指しています。当社はこれまでも、女性を積極的に登用し活かしてきたという歴史があり、昨年、女性管理職は約30%になり、2020年には40%を目指しています。この当社が最も強い領域で、社会のお役にも立ちたいという思いがあります。

私ども資生堂は、年齢の高い層から一定の支持が得られている一方、若年層からの支持が弱いという課題がありました。昨今のジェネレーションZと言われる若い世代は、環境や社会課題に対して非常に高い関心を持っています。そこでジェンダー課題の解決策を若年層の人たちと一緒に考え、実行するアクションを通して、若者と接点を作りたいと考え、このワークショップを構築しました。

### (2) 若者とジェンダー課題を考える

ワークショップで扱うテーマは日本社会のものに絞っています。理由は自分事として考えてほしいからです。この活動で目指しているのは、学生さん自身がジェンダーの課題を自分事として捉えるということです。そしてそこから、自らの行動の変化につなげてほしいと思っています。ジェンダー課題は高校生にとって今までの人生の中でほとんど意識したことがない事柄であり、まず自分事として気付いていただくためには、インプットが非常に重要だと考えています。

そこで基本的な知識を身に付けていただくための専用教材も今年開発致しました。この教材は、高校生が家庭科の男女共同参画の単元と関連付けながら使えるものとなっており、ワークショップの事前準備としてお使い頂けるものです。参加校にはまずこの教材をお渡しして授業をやって頂き、その後資生堂の社員とUN Womenのスタッフが学校に訪問し、ディスカッションを行ないます。UN Womenからは、世界のジェンダー課題に対して、国連で優先している取り組みについてレクチャーをして頂き、資生堂からは、企業の最先端の活動についてご紹介します。

ここで私たちが一番大切にしているのは、学生からの質問とディスカッションの時間です。このワークに参加する学生さんは、どなたも真剣にこの課題に取り組み、本気の議論をしていただきますので、私たちも本音で向き合うようにしております。

### 【Ⅲ：企業の取り組み】

#### Generation Z Gender啓発ワークショップ 展開内容



1年の流れとしては、春に募集告知をして、夏休み前にワークショップを行ない、夏休みの間に各学校毎に課題の解決策を見出し、まとめていただきます。秋に、各学校に10分間のプレゼン動画を作っていただき、それを資生堂とUN Women、行政機関とアカデミアの代表者が審査し、最終的な代表校を決めております。2018年のエントリー校は全部で25校、文部科学省さん

にも告知にご協力を頂きました。実はこの中の半数以上は、生徒さん自らが見つけてきて、先生に働きかけて参加された学校です。興味深いこととして、生徒さんたちのこうした行動をきっかけに、先生がこの問題の意義を考え直されることがありました。

また、今年は海城と開成という男子校2校からエントリーがあり、最後まで残ったことで、男子視点からの提案には様々な反響がありました。

当社は、この活動を日本の社会課題であるジェンダー平等を促すために行っておりますので、この活動の成果をどう測るかということも考えています。その視点の1つとして、学生の意識にマイナーチェンジが起きているかというものがあり、ワークショップの前後でアンケートを行っています。結果を見ますと、何かしら気付きを与える機会にはなっているということが確認できました。

#### （3）高校生たちの取り組みと反応

参加した生徒さんたちのコメントからは、本当に様々な視点で刺激を受けている様子が見て取れますし、「自ら行動を起こさないといけない」と動機付けにもつながっているようで、非常に嬉しく思っております。

そして、具体的な動きも実際に起こっています。例えば2017年度に参加した愛知県立旭丘高校です。旭ヶ丘高校は、スーパーグローバルハイスクールで、ゼミクラスというのを設けていて、そのゼミのテーマとして取り上げていただき、参加した生徒さんたちが中心となり研究を進めてくださっていました。このワークショップのテーマはジェンダーを切り口としたものでしたが、参加した生徒さんが、「自分の生き方を考えるワークですね」とコメントしてくださったことが印象的でした。そのことを実感した生徒さんが、ワークの後に、ワークに参加しなかった生徒さんにも、同じような気付きの場を与えたいと考えた結果、ロールプレイングゲームの開発につながったようです。生徒さんのコメントです

「ワークに参加する前は、いい人と出会い、いい感じの生活を送ろうという素朴な考え方だったのですが、もっとちゃんと、自分を意識し、自分はどういう仕事か、自分のやりたいことを真剣に考えて、将来の選択をしないといけないと痛感しました」

「自分自身の考え方や世界が広がるのももちろんですが、私たちの世代が変わっていくためには、1人でも多くの人に、男女の問題に対して課題意識を持ってほしいですし、この取り組みの効果が波及して広がっていけば良いと思っています」

旭ヶ丘高校がロールプレイングを行った結果は、男性と女性で家事と仕事を均等に分担した方がより多くの利益を得られるということについて、ゲームを通じて実感できたことで、非常に理解が深まったと聞いています。

### 【Ⅲ：企業の取り組み】

もう1つの学校が、郁文館グローバル高等学校です。こちらは共学校ですが、男子生徒が中心となってこのワークショップを進めてくれました。また、ワークショップで気付いたことを1学年下の生徒さんに伝えたいという思いから、2年生の生徒全員を集めて授業を行っています。生徒さんのコメントです。

「日本が、ジェンダーという点、特に女性の社会進出という点で凄く遅れているということは、ワークショップを通して初めて実感しました。ワークショップ後にその視点から物事を見るようになった時に、それは境遇として変じゃないかなと思いました。先生に相談してみて、この学びを共有したいと思い、授業をすることになりました」

その授業を受けた生徒さんのコメントです。

「『ジェンダー格差という視点から新たな事実を知った』、このことから、自分はまだまだ知らないところがあるんだと思いました。授業をやった先輩のそのアクションにすごく触発されて、自分も何か行動してみたいなと思いました。」

郁文館グローバル高校は、下の学年にきちんとバトンタッチしてつないでいて、ジェンダー課題を考えるという文化ができつつあるという状態が私たちが目指したものに非常に近いと思っています。また、参加いただいた学校の先生のコメントを見ますと、高校時代にこうした活動に参加する意義について、みなさん好意的に受け止めて頂いている様子が窺えました。資生堂として、これをどうつないでいくか、学生が本当に様々なアクションを起こし始めているので、課題解決のために何ができるかということを考えている最中です。

最後に、今年の活動をまとめた映像から、学生さんのコメントです。

「いろんな運動とかが起こっているっていうことを知ったので、それに参加したいなということを思ったし、自分はただ1人の女子高生で、やれることは企業や社会と比べたら少ないと思うんですけど、まずは自分の意識を変えるところから私たち高校生がしていけば、自分が大人になった時には、全員の意識が変わってることだから、自分が就職する時にも、たぶん、上司の人とかは変わっていなくても、自分がどんどん変わっていけば、高校生の間の方が心の中を変えやすいのかなって思うので、そうやって変えておいて、大人になっていくことが大事なのかなと思いました。」

「私たち自身、このような知識を学べたことはとてもよかったと思いますが、それに加えて、もうすぐ企業に入り働き始める私たちの世代がこうした発表をすることで、企業の方に何らかの刺激が伝わり、社内が変わったり、雇い方が変わっていけばいいなと思ったので、声をあげていくことがとても意義があることではないかと思いました。」

(丁)



小学生向けキャリア教育プログラム  
阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊  
阪急ゆめ・まち わくわく WORK プログラム

相良 有希子氏（阪急阪神ホールディングス株式会社  
人事総務室総務部 課長（社会貢献担当））

【2018年12月22日（土）大阪セミナー】

本日は、地域の方々に対し企業がどんな支援を提供できるのかについてお話させていただきます。阪急阪神ホールディングスグループは、2006年の阪急電鉄と阪神電気鉄道の経営統合に伴い、阪急阪神不動産や阪急交通社、阪急阪神エクスプレス、阪急阪神ホテルズという中核6社以下100社ほどの会社が連なり生まれた企業グループです。従業員は2万人ほどで、私は阪急阪神ホールディングスという親会社でグループ全体の社会貢献活動の促進を担当しております。グループの中には電車、バス、タクシーといった都市交通系から商業施設、宝塚歌劇団や阪神タイガースといったエンタテインメント、またホテルや旅行など、生活全般に様々なサービスを提供する企業グループとなっております。

（1）阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト

この企業グループが2009年から始めたのが「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」という社会貢献プロジェクトです。私は立ち上げからずっと関わっておりまして、来年10周年を迎えます。我々の企業グループは、阪急阪神沿線のまちを中心に支えられ、これまで100年以上続いて参りましたので、このまちの発展への恩返しを社会貢献の基本方針としてやっております。

ここでは重点領域を2つ設定し、その1つは地域環境づくりです。地域コミュニティが安全・安心かつ文化的で、環境に配慮しながら発展する持続可能なまちとなるよう活動しています。もう1つが次世代の育成です。未来のまちの担い手となる子どもたちが、夢を持って健やかに成長できるための機会づくりを企業としてお手伝いできればと考えています。

また、3つの主体と協働することを非常に大事にしています。1つ目がグループ会社全体での社会貢献活動の推進です。約100社が生活に密着した様々な事業をやっておりますので、それぞれの特性を生かし、全体として効果の高い協働生み出し、社会貢献を進めております。

2つ目が地域社会との協働です。まちは企業だけでなく、様々な地域の方々が支え合い成り立っているものですので、我々だけが社会貢献をするのではなく、地域の方たちの様々な課題に対する取り組みを企業として応援することで、まちが良くなると考えております。例としまして、従業員からの募金に対して会社が同額を上乗せする「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」という助成金があります。タウンスペースWAKWAKさんやCAPセンター・JAPANさんなど、地域課題に取り組む団体さんに助成金をお渡ししています。私たちは市民団体の方々に「まちを良くしていくパートナー」と考えておりますので、お金をお渡しした後も、団体さんの広報に協力したり、一緒に色々なイベントをさせていただいたりしています。

3つ目が従業員ボランティアの促進です。「阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊」の活動や、小学校向けのキャリア教育として「阪急ゆめ・まち わくわくWORKプログラム」という出

### 【Ⅲ：企業の取り組み】

張授業もしております。また、お客様と接点がある場所での子どもの安全を守るための110番活動や、梅田の商業施設を消灯して環境について考える「1000000人のキャンドルナイト」などを行なっています。

特徴は、「市民団体とともに」を非常に重視していることです。2017年からは、市民団体などと連携して、お客様に地域の課題に気づいていただいたり体験したりしていただく「阪急阪神 ゆめ・まちソーシャルラボ」をはじめました。私たちは駅や商業施設など、たくさんのお客様が来られる施設を運営している企業ですので、広く課題を伝えるのにそういった場を活用しています。例えば、長期入院をしている子どもたちに笑顔を届ける活動をしている日本クリクラウン協会という団体の活動を知っていただくためのイベントを駅の構内で行なったり、ちょうど今は、大阪の梅田駅構内にある紀伊國屋書店の前でチャイルド・ケモ・ハウスという小児がんの子どもたちの支援をされている団体さんの活動をパネル展示し、駅を通るお客様から病気の子どもの子どもたちへ向けたメッセージを書いていただくキャンペーンをやったりしています。このような形で、企業が持つリソースを活かしながら、子どもたちの支援や地域の環境づくりを行なっているのが「ゆめ・まちプロジェクト」です。

#### （２）阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊

社会体験型のキャリア教育プログラム「阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊」は、2010年から実施しております。これは、グループ企業が展開している様々な事業現場で、子どもたちに仕事の面白さを体験してもらう取り組みです。1つの会社が受け入れられる子どもの人数は限られておりますが、例えばザ・リッツ・カールトン大阪ホテルでは、シェフが直接子どもたちにお菓子づくりを教えたり、阪急電鉄の教習所では、運転手を育てる普段は入れない場所で、本物の機材を使って電車の運転・車掌の実習を体験していただいたりしています。



2018年の夏には35社が57プログラムを提供し、2,600名の小学生を招待致しました。これまで累計322プログラム、約1万5,000人の小学生を招待し、生きた学びの場を提供させていただいております。このプログラムは非常に人気でして、約2,600人の定員に対し2万人を越えるご応募があります。沿線の教育委員会の後援を頂き学校を通じてご案内しているということもあって、非常に大きな期待があることを実感しています。

#### （３）阪急ゆめ・まち わくわくWORKプログラム

各事業所で受け入れられる人数には限りがあり、また「働く」ということに対して学校側が非常に高い興味・関心を持ってくださっていることを踏まえ、我々が学校に出向き、様々な仕事を紹介する、出張授業型の「阪急ゆめ・まち わくわくWORKプログラム」を2016年度より始めました。

簡単に授業の流れをご紹介します。1時間目は、まちを作ることに夢をかけた昔の人の努力や工夫を知る時間です。阪急電鉄を作った小林一三はたくさんの日本初のアイデアを出しながら、阪急沿線のまちを地域の人たちと一緒に発展させてきたという話を紹介します。約100年前の写真を見ますと、最初は田んぼと畑しかない郊外に線路を敷き、会社はひ

### 【Ⅲ：企業の取り組み】

どい赤字でした。乗る人がいないのだから当然です。そこを小林一三は、阪急電車に乗る人を自分たちでつくれば良いのだと考えます。人が集まる所に線路を引くのではなくて、人がいないからこそ、そこに人が集まる様々な仕掛けや場所を作れば良いと考えました。

授業では、子どもたちが社長である小林一三になったつもりで、阪急電車に乗る人を増やすために、どんな場所を作れば人が集まるかアイデアを出し合います。グループワークを取り入れたアクティブラーニングによって、子どもたち自身が色々なアイデアを考えるところが非常に面白いプログラムです。実際の小林一三は、例えばあらかじめ住宅地用の土地を買って線路を引いた後で住宅開発をしたり、球場や遊園地などのエンタテインメント施設を作ったり、電車が空いている郊外に学校を誘致したりなど、平日も休日も電車が乗る人がいるようにした、という話を子どもたちに伝えます。



こうした話を子どもに伝える上で大切にしているのは、実は成功体験だけではなくて、アイデアには色々な失敗もあったことを伝えることです。例として、実は宝塚には日本初の屋内プールが作られたのですが、プールの水を温める技術が当時なかったので、水が冷たく、お客様が来ないという大失敗をしました。プールはやめました、その施設を使って劇場を作り、それが今の宝塚歌劇団につながりました。失敗

したけれど、それをあきらめず、見方を変えて成功につなげた人もいます。このことから、子どもたちには失敗を恐れず、何度でもチャレンジしてほしい点や、たくさんの人の声を聞きながら、アイデアを考えて行動することが大事だという点を伝えております。

2時間目では、こうやってできたまちに様々な仕事が生まれた話をして、興味と仕事のつながりを探るワークをします。小林一三は実は道楽者で、小説を書いたり演劇を見たりすることが好きな、文学青年でした。経営の道には入りましたが、そこでも好きなことを活かしており、例えば電車のお客を増やすのに「綺麗で、早うて、がら空きで」というキャッチコピーを作りました。自分の電車のことをがら空きなんて普通の人は言わないですよね。また郊外に家を買ったら快適な田園都市生活が出来るよ、というチラシを作って住宅販売をしました。

こうした自分の好きなことが、電車に乗る人を増やしたり、人々を楽しませるための様々なアイデアにつながったりしたというお話をしながら、興味・関心のあることを仕事に活かすのが大事だということを伝えます。仕事というと、パティシエやスポーツ選手など、憧れから考える子どもたちが多いのですが、まずは自分がどういう興味を持っているかをきちんと考え、その興味が繋がる仕事とはどのようなものかを探るワークを行ないます。例えば、物を作ることが好き、人を助けることが好き、人前で発表することが好きというような様々な興味・関心がどれだけ自分にあるかをチェックシートで確認し、その結果、興味・関心が多かったカテゴリーと、そこからつながる仕事を探ります。4つのカテゴリーがあり、人と関わったり喜ばせたりすることに興味がある人だったら、例えば、看護師や小学校の先生、分からないことを知るために研究や調査をしてまとめることに興味がある人だったら科学者や医師など。世の中には様々な興味につながる仕事がたくさんあるんだということを子どもたちに伝えることで、仕事の選択の幅を広げることを目指して行なっています。



#### （４）参加者の声

子どもたちからは、今まで知らなかった仕事を知ったことで、面白そうだと思う仕事が増えた、という声をいただいております。1つのプログラムとして、わずか2時間しか子どもたちと接することは出来ませんが、学校の先生方のキャリア教育の一助として活かしていただけているのではと感じています。



子どもたちには、過去・現在・未来と、興味を持つものは変わるかもしれないけれど、まず自分の興味を考えることが自分の未来につながるということを強いメッセージとして伝えています。興味のあることを増やすと、自分の可能性・夢が広がるから、色々な見方や考え方をして興味を増やしていこうと伝えています。

学校の先生、授業後のアンケートでは、非常に肯定的なご意見をたくさんいただいております。例えば、先生からは「児童が自分の興味があることと関連する仕事がたくさんあることを知って、仕事の選択肢を広げるために有効だったと思いますか？」という問いに対しては、100%の先生方から「そう思う」という声を頂いております。

#### （５）地域のニーズに応えた貢献を

以上のようなプログラムを「地域の課題に応える取り組み」として発展させています。地域の市民団体と連携した様々な取り組みとして、出張授業も活用しています。例えば、不登校のお子さんたちが多く通うフリースクールや、地域的に困難な状況の子どもたち、自己肯定感がどうしても高くない子どもたちが多い地域における、子どもたちの居場所づくりをしている市民団体さんと組んで、その子どもたちに対する「ゆめ・まち わくわくWORKプログラム」を実施しています。子どもたちの周りの大人だけでは、どうしても知ることができる仕事は限られています。「世の中には色々な仕事がある」という気付きを得てもらうために、実際に働いている我々が直接子どもたちと接してお話することで、世の中のさまざまな仕事に触れてもらうと共に、企業が社会貢献を行なうということにも気付いてもらう機会にもなりました。

プログラムを行う時は、我々自身の弱みや悩みも子どもに伝えるようにしています。特に困難な状況の子どもたちは悩みを抱える場合が多く、大人から心を開き「大変なこともあるけれど、今こうして働いていることにやりがいがある」と伝えたと、子どもたちの共感が高いということを、ある市民団体と作ったプログラムで感じたこともありました。これらの積み重ねから、児童養護施設の中にある小学校からの要望があったり、中高一貫の学校から同様のプログラムを考えたいといったお申し出を頂いたりします。

2020年の学習指導要領の改定により、学校側がキャリア教育に取り組むことが必須となったと聞いておりますので、その一連の活動として、わずかながらお手伝いが出来ればと思っています。出張授業については、年度の始めに募集しまして、今年は年間50校ほどで実施予定です。企業としてできることは限られておりますが、地域の子どもの育成に本気で関わっていきたいと思っておりますので、これからも色々な面で協働を大事に進めていきたいと思っております。

（了）